

学区は、紫雲寺潟干拓発祥の地にあり、享保13年(1728年)から7年間の年月を費やした大事業「紫雲寺潟干拓」の開拓精神(拓魂)は脈々として流れている。学区は、県道「新潟・村上線」が南北に走り、東西に加治川が流れている。米子、真野原1、真野原2、真野原外、河岸場、ニツ山、人橋の7地区よりなり、砂丘地、水田地帯に分布した農村地帯である。広々とした校地には、一日中太陽の光を受ける大きなグラウンドやタイヤスタンドなどがある。また、グラウンドの一角には平成14年に「米子の森」、校舎脇には平成17年に「学校田」が整備されるなど恵まれた教育環境のもとにある。

学区民の教育に寄せる期待や信頼は高く、学校の教育活動や地域の子ども会育成活動には協力的である。

